

どうして踊りはじめた？

高校卒業後のワコールカープを辞めて（ビデオにとって何回も繰り返し見ていた）、自分もやってみたいと思ったことがきっかけ。  
アパートの部屋で、フラフラやボールを打って、広い場所を動いていることを想像していた。近所のバレエ教室に通い出した。  
シシタ先生に足を持ってもらって、鏡の前で自分のアラバスク姿を見ているときの時の記憶。

31歳の頃の踊り

バレエレッスンが何より好きだった。発表会の練習よりも、いつも今日のレッスンを覚えるのが好きだった。バレエレッスン  
いつもワクワクしていた。踊ること（もしくは自分との闘い）純粋に本当に好きだった。自分の中で内得ある踊りと  
目指していた。母が手にはめてくれた。それはそれで「好きだったけど」。本音はホーリに立ち、目に見えないものの  
お客さまに、自分の踊りを通してアペールすること、ダンスそのものに成るような、そんな気持ちで舞臺に立っていた。

高木先生からいからの踊り

相変わらず、バレエレッスン、フロアレッスンは好きだった。人に見られることがすごく嫌になった。  
踊るのは好き、でも人前で自分の踊りを見せることに抵抗を持ち始めたのはこの頃。

大学から社会人までの

ずっと背っていた先生の元を離れ、車で2時間かけてバレエを習いにいくように。今までのやり方、それによってできた  
自分の身体をいちからつくって直すといけなかったことに気づかせる。信じて続けたこと、その中でキャリア、  
全てが。このときは何だったんだろう...と落胆した。ここからは、自分の身体、身体の動かしかたを疑い始める。  
今の足の動きは大丈夫なのか？ 手の動きは？ ここからは疑いながらも、稽古し続ける。身体とダンスを繋ぐ時間がたてられた。

25歳のとき ショーネード・ヒュースに出会う

ACCのWSで彼女に出会った。一番にワークインプログレス（以下）とさきおれ。県庁での仕事の後、約2週間  
雪の中車でACCへ通った。英語がほとんど話せなかったけど、やる気だけはあって、ショーネードの動きを全部真似た。  
後から（英語がわかるようになった数年後）彼女にきくと、「完全な、何でも私の動きの真似てくるから、セーブした」  
とのこと。それとさうだ。モダンダンス、バレエ、クラシックバレエ、異文化体験を経てきた自分にとって、ショーネードは  
今まで会ったことがなかった。とてもインテリジェントな振付家、ダンサー。私は彼女からたくさんの影響を受けた。  
それがポストモダンダンスの系譜であることと気がつく。ショーネードはマスカニン・ハムスタジオ出身。

ここから10年間、私は彼女の作品を踊る。身体を表現しても、もう踊れなくなっても、今までの踊りから  
しっかりと彼女の作品の一部になること。作品が世の中に出ていくことのために全てのカネを注いだ。記  
ツアーやWSで沢山の国に行った。その本音も、とても怖くて、とても楽しかった。その時の時間、景色、気持ちは今も  
私のの中にあって、それらと共に生き踊りと向き合っている。

30歳のとき、人生かけて神戸（新長田）DANCEBOX 主催の国内ダンス留学へ

ショーネードにずっと自分の振付作品をもらった方がいいと言われていた。このときは、踊ることには何の疑問もなく、  
ダンスとはずっと踊っていき続けることは決めていた。でも、振付家として、誰かに振付を渡して作品をエックすることと自分から  
できるのだろうか... それを確かめるために、東京から8ヶ月移住してプログラムに参加した。ガチで人生かけていた。  
最初で最後には2か月も休まなかった1年間の振付作品。5と10が生まれ、10と10が落ちる。10、今年で30歳を  
知った。踊ることよりも、誰かにも素敵な人に自分の振付を踊ってもらうことに幸せを感じるように。

39歳、今の自分の踊り

30歳から今まで、定期的に自分も振付けてきた。踊ることを忘れたことがなかった。でもダンスとしての自分、身体は  
振付家としての自分は非常に振付がつらいものだった。ただ今までの自分の中で（25歳頃～、もしくは20歳頃～）  
踊ることにはただ楽しいことではなくなり、どちらかという辛いものになった。辛い中に、ほんとうに時々、楽しめたりする。  
そんな感覚。また、ショーネードのおしえもあって、私は作品の中で踊るとき、楽しいとか楽しめとかは無し、辛いこと、  
自分を追い込まないといけない、そうしないと作品にはならない、と思ってきた。（たぶん2020年からコロナ禍となり、自分について、  
ダンスと生活について考え直す時間が沢山あった中で「やっぱり自分自身も幸せでいたい」と思うようになった。  
幸いにダンスと生きることと目指す「フルスクア」を創作している。2020年に書いた小さな場、田舎口にて。

2022年2月24日(木) 玲奈